

令和5年度胆江圏域地域医療連携会議議事等とりまとめ結果

【協議事項】

1 令和5年度胆江圏域地域医療連携会議の進め方と今後の予定について

了承 24 (全委員了承)

2 胆江圏域における紹介受診重点医療機関の指定について

同意 24 (全委員同意)

※資料2-1の下から4行目の「初診受診重点医療機関」は「紹介受診重点医療機関」の間違いでした。ご指摘いただいた委員様、有難うございます。

【意見聴取】

3 地域医療構想に係る具体的対応方針策定のための取組シートについて

(意見等)

- (1) ひな形としては良いと思います。実際、運用してみて改良すればよいのでは。(かじかわクリニック 梶川委員)
- (2) 各病院、有床診療所において記入される様式となるので示された様式での取りまとめで良いと考えます。
(胆江地区介護支援専門員連絡協 佐々木委員)
- (3) 各病院の聞き取り集約のみならず、圏域内の医療資源適正化のための議論を深めてほしい。(奥州市医療局 朝日田委員)

事務局としては、取組シートについては概ね委員の皆様の了解を得られていると考え、今後、当該シートにより関係医療機関に照会し、それらを取りまとめて具体的対応方針(案)を作成のうえ、委員の皆様協議いただきたいと思います。

4 岩手県保健医療計画について(「岩手県保健医療計画(R6—R11)の策定に向けた方向性について」を参照しての意見等)

(1) 県計画について

ア ・計画の前提となる医師確保のチェックが必要だと思えます。

・保健医療圏（医療圏）及び基準病床数について

計画によると、精神疾患、周産期医療の2疾患が既に4医療圏となっており、がん医療、脳卒中、心血管疾患の3疾病対応のため、新たな医療圏設定か、既設の4医療圏に加わる形かは別として、現状の医療提供体制を見れば、それを担うであろう県立病院の再編が避けられないと考えられます。また、県民の受療動向ビッグデータは、現状の9医療圏内の医療サービスに課題があることを示す結果ではないでしょうか。これを踏まえて、県立病院は高度・専門医療に特化させ、再編から外れた県立病院は、基礎自治体への移管を視野に入れた統廃合を行ってはいかがでしょうか。地域包括ケアシステムは、地域医療構想に係る病院の具体的対応方針を基に、基礎自治体を中心となり構築するため、自前の公立病院として据えることができます。何れにせよ、地方公営企業法第三条のとおり、常に経済性を発揮するとともに、その本来の計画によると、精神疾患、周産期医療の2疾患が既に4医療圏となっており、がん医療、脳卒中、心血管疾患の3疾病対応のため、新たな医療圏設定か、既設の4医療圏に加わる形かは別として、現状の医療提供体制を見れば、それを担うであろう県立病院の再編が避けられないと考えられます。また、県民の受療動向ビッグデータは、現状の9医療圏内の医療サービスに課題があることを示す結果ではないでしょうか。これを踏まえて、県立病院は高度・専門医療に特化させ、再編から外れた県立病院は、基礎自治体への移管を視野に入れた統廃合を行ってはいかがでしょうか。地域包括ケアシステムは、地域医療構想に係る病院の具体的対応方針を基に、基礎自治体を中心となり構築するため、自前の公立病院として据えることができます。何れにせよ、地方公営企業法第三条のとおり、常に経済性を発揮するとともに、その本来の目的である公共の福祉を増進するように運営されなければならないとあり、公的病院等は、地域において必要な医療のうち、採算性等の面から民間医療機関による提供が難しい医療を提供するという役割を担っており、救急医療（精神科救急を含む）や災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療などにおいて重要な役割を果たすことと理解されています。さらに、医療の

みならず保健、予防、医療関係者の養成等、一般の医療機関に常に期待することのできない業務を積極的にを行い、これらを一体的に運営するという特徴もあります。この存立の意義に立ち返り、民間病院との競合を防ぎ、本来の公立病院の目的が達成できるような再編成が必要であると考えます。

次に、現行では、盛岡市保健所を除いて、9医療圏と9保健所の管轄範囲が一致していますが、今後、高度専門医療体制構築のため医療圏の範囲が変わった場合、保健所の管轄と一致しないことで、弊害等の心配はないでしょうか。

・保健医療を担う人材の確保・育成について

医療職員確保において、医師については、医学部に地域枠を設けている場合あり、今後、教職員養成大学にも地域枠を設ける予定であり、薬剤師、看護師に対しても地域枠・病院勤務枠を設けてもらうよう国にはたらしかけてはいかがでしょうか。次に県立病院から市町村へ出向させてはどうでしょうか。一般職、教員、学校職員では行っているの、ハードルは低いのではないかと思います。その後、大学病院や大規模病院を加えて、出向先を民間病院まで範囲を広げることを検討してはいかがでしょうか。

・保健・医療・介護・福祉の総合的な取組の推進について

取組の推進に当たり、そもそも、地元の在宅医療に関してみれば、「患者」、「病院・診療所」、「介護支援専門員」、「薬局」、「入所施設・訪問看護師」の担当者が随時、文書、会議により情報を共有して、さらなる相互連携強化を進める必要があると思います。仕組みはあるものの、自立支援会議などで、かかわる担当者同士の情報共有不足が原因とみられる解決困難事例としてあげられることが多いのが現状です。（奥州薬剤師会 中目委員）

イ 内容が難しく理解できない。説明してほしい。（奥州市社会福祉協議会 田面木委員）

ウ 岩手県の今後5年間の保健医療計画であるが、その先2045年の岩手県の人口動態も考えた保健医療政策が重要であると考えます。各圏域の地域医療（保健も含む）の体制及び福祉計画も連動した保健医療福祉計画となれば良いと思う。（胆江地区介護支援専門員連絡協 佐々木委員）

エ 最近の政策立案、計画作成にロジックモデルが多用されている。県でも具体的な目標、最終アウトカムを明確に示すことを期待したい。また、そのための検討会も必要であると考えます。

国が示した計画案に従うだけでは独創性、地域性を発揮できないので、県に更なる努力を期待したい。以前から県の健康課題は脳卒中であり、もう少し予防医学的なアプローチによる政策・計画を期待する。そのための専門家の養成・指導を期待する。（奥州保健所 星委員）

オ 本格的な人口減少、少子・高齢化を迎えるにあたり、疾病・事業別医療圏の設定はやむを得ないと思います。一方、周産期医療では、対応を切望する地域もある現状において、それが他の疾病にも及ぶこととなるのであれば、予め県民に対して丁寧な説明が必要になると思います。（まごころ病院 伊藤委員）

カ 岩手県における保健医療計画の策定はおおむね妥当と考えます。ただし国が推進する少子化対策には爆発的な実効性はなく、現状の少子化のスピードをある程度緩めるくらいの効果が期待できる程度でしょう。結局、お金をばらまいて関連の産業の利益に回るのみであろうと思います。人が少なくなり、高齢化が進んでも可能な別な次元のことを考える必要があります。労働人口、介護人口が少なくなるのですから、①生きることの意義、生かされることの意義を考え直すこと、②日本の産業を老人ができる構造に変革する、それでも右肩上がりを求めるのであれば③生産方法の自動化、④介護ロボットなどの人に頼らない方法の導入などが必要です。

岩手県であれば、日本的な考えに固執しない新しい生命感を作ることができるかもしれません。

(美山病院 吉崎委員)

キ 事務的に気づいた点など

・P21以降の第3章として4タイトル、第4章として5タイトルとなっているが、P18のように第何節とするなどで整理したほうが良いのではないかと考えました。

・P29の上段に「○ 歯科・薬剤師・看護師」とあるが、歯科とは歯科医師や歯科衛生士のことか。

また、引き続きの看護師、薬剤師の取組は、「○ 歯科・薬剤師・看護師」の順と違い違和感がありました。また、歯科は省略か。

・P29の下段に「新たに開設した医療的ケア児支援センター」とあるが、例えば「令和4年9月に開設した岩手県医療的ケア児支援センター」と明記した方がよいのではないかと考えました。(まごころ病院 事務局)

回答：御意見については、県庁医療政策室に伝え、次回の会議において同室から概要の説明を行います。

(2) 地域編（胆江保健医療圏）について

ア 生活習慣病対策についての見直し等、「非感染症疾患、加齢に伴う疾患対策について」の下の項目にガン疾患に対する項目も追加してはどうか。(奥州医師会 亀井会長)

回答：ガン疾患対策については、引き続き重要と考えていますので、記載について検討します。

イ 奥州市立医療機関は、統廃合を行い、公立病院の存立の目的を踏まえ、この地域に必要な事業、維持すべき事業を洗い出し、再構築する必要があると考えます。併せて、県立江刺病院との調整も不可欠だと考えます。(奥州薬剤師会 中目委員)

回答：地域医療構想に関連する事項と思われますので、その際に協議したいと考えています。

ウ 沢山、病院があるのですから、もう少し整理する方向にしてみても？（かじかわクリニック 梶川委員）

エ 胆江圏の医療、一次、二次が効率的に提供され、三次医療については中央に待機時間がなく、必要な医療提供がなされるようお願いしたい。特に周産期、小児、障害児医療が胆江圏でも安定的に受診できるようになれば良いと願う。（胆江地区介護支援専門員連絡協 佐々木委員）

オ 地域の人口は減少し、それに合わせていわゆる65歳以上の老年人口も徐々に減少します。今後策定する施策の有効期限をどこに置くかによって考え方が違ってきます。10-20年であれば一定数を維持する高齢者の医療、介護を中心に考える必要があります。介護施設を系統的に整備し、人口の多い地域からの移住を促すことも一つのアイデアです。あるいはもう少し長いスパンを見ると、成人と小児医療に重点を置くべきでしょう。日本は移民を導入して、大きく人口構成を変えるという考えはないようですから、日本国内にある少ない人口の中から、あらゆる世代をこの地域に移住させるような施策を打つ必要もありそうです。安比に国際学校ができ、さらなる設置計画があるようです。これに期待したいのですが、卒業生のほとんどは学校生活だけを岩手県で過ごして国外を中心に出ていってしまうでしょう。となれば、日本国内のほかの自治体にはできないような教育、医療の環境の整備が必要になります。（美山病院 吉崎委員）

カ 各圏域の実情に応じた対応策等の検討も並行して進めてほしい。（奥州市医療局 朝日田委員）

回答：御意見については、参考とさせていただき、必要な取組等について検討します。

キ 周産期・小児医療への具体的な取組はどのようになっているのでしょうか。現状と課題を共有したうえで、更なる構想に期待します。（美希病院 井筒医院）

回答：今後、具体的な取組について記載する予定です。

ク 生活習慣病対策については、大事な視点だと思いますが、これまでの「働き盛り年代や若年期を対象とした対策」は、循環器病対策等のところの取組になるのでしょうか（子供の肥満対策、口腔ケア対策（歯周病等）など。）（県立江刺病院 川村院長）

回答：今後、循環器病対策、糖尿病対策のところで記載する予定です。

ケ 地域特有の健康課題はないと考えている。全般的な健康づくりが求められる。強いて言えば少子高齢化で、需要と供給のバランスを考えると加齢対策、介護予防等が健康課題と考える。したがって、高齢者保健事業を推進することを考えている。医療・介護連携に保健事業を追加し、三者での連携強化を図りたい。また、医療需要の減少、介護需要の増加が予定され、医療提供体制の再編成（新市立病院計画）、医療・介護連携、高齢者における保健事業への取組が求められている。

メンタルヘルス対策も大きな課題の一つである。一般住民のメンタルヘルス、精神保健にどのように取り組んでいくか課題である。産業保健や学校保健では取組が始まっている。地域保健でも積極的に住民のメンタルヘルスに取り組んでいきたい。（奥州保健所 星委員）

5 公立病院経営強化プランについて

(1) 当地域は県立2病院、市立2病院、3診療所（うち1つは歯科）、町立1診療所があり、当地区の特

徴を出したメリハリのあるプラン作り、策定を望む。(奥州医師会 亀井会長)

(2) 公的病院の存立の意義を忘れず、民間病院との競合を防ぎ、本来の目的が達成できるような再編成が必要であると考えます。(奥州薬剤師会 中目委員)

(3) 人口減を考えたプランを立案してほしい。(奥州市社会福祉協議会 田面木委員)

(4) 医療に必要な施設(病院)、設備、人員(人材)、財源も含め、非効率にならないように中長期ビジョンをもって効率的に運営がなされるように経営強化プランを考えてほしい。県土の広い岩手県で医療政策を日々考えている職員の皆様に感謝しております。(胆江地区介護支援専門員連絡協 佐々木委員)

(5) 納税者に公的医療機関への税金投入の成果を十分に示す必要があります。純粹に基準を満たした医療を行うのであれば、赤字になることを大いに示すべきです。問題点は漫然と資金を注入することであり、最も安易なので一般的に行われることでしょう。増収を目指すのであれば、たとえばスキルがあるにもかかわらず余剰になった人員があれば、事業として有償の人材派遣(期限付き出向扱い)を行ってもいいかもしれません。医療・介護のみならず、医療安全、感染対策などの知識を勤務によって地域に広げることができるように思います。設備投資が少ない移動診療や出向く検査(移動式MRI検査車、心エコーなど)、医療保険収入以外の収益事業を考える必要があります。(美山病院 吉崎委員)

(6) 水沢病院を新医療センターとして、単独で建て替える計画については、医師確保の不透明性や、採算の問題等の問題があり、強く反対します。今後、人口が減少する社会であることを考えると、公的医療機関を統括整理していくことは必要であり、再考すべきだと思います。(本田胃腸内科 本田委員)

回答：次回の会議において、県医療局及び奥州市医療局から説明していただくよう調整します。

(7) 小規模の公立病院である当院にとって、岩手県立胆沢病院、総合水沢病院との連携は必須です。当院の機能である回復期機能、在宅医療をより強化してその役割を果たし、奥州市の病院経営の改善につなげたいと考えています。（まごころ病院 伊藤委員）

御意見については、参考とさせていただきます。

(8) 当市の強化プランについては、11月に向けてスケジュールを組んでいることから、次回の懇話会開催について、その時期での開催検討をお願いしたい。（奥州市医療局 朝日田委員）

回答：検討します。